



# 放射能の垂れ流し、許しません

豊かな自然や生命を守るために

青森県六ヶ所村にある使用済み核燃料再処理工場の本格稼働が11月にもはじまろうとしています。それによる放射能汚染を危惧し、グリーンコープをはじめ生活クラブ生協や大地を守る会、日本消費者連盟など6団体がネットワークを結成し、再処理工場の本格稼働反対運動に取り組むことになりました。

**再** 処理工場は、日本全国の原子力発電所から運びこまれた使用済み核燃料からプルトニウムとウランを抽出する施設です。普通の原発と大きく違う点は、大気中や海中に大量の放射能を排出してしまうということです。

海中に放出された放射能は魚や海藻に蓄積されていきます。また、大気中に放出された放射能は広範囲に広がり、大地に、農作物に降り注ぎます。放射能に汚染された海産物や農産物はやがて私たちの食卓にのぼり、私たちは食べものをとおして放射能を体内に取り込むこととなるのです。イギリスやフランスで稼働している再処理工場付近では、子どもたちが非常に高い確率で白血病に侵されていると

いう報告があります。このような深刻な状況がある中、再処理工場は本格稼働へと突き進んでいます。これでは豊かな自然環境が放射能で汚染され、農業や漁業をできなくなってしまう恐れがあります。それは同時に、安心・安全な食べものを得られなくなるといふことでもあるのです。

## 「いのち・自然・暮らしを守る」

日常的に放射能を垂れ流すことが再処理工場の大きな問題と言えますが、ひとつの事故が起れば、想像を絶する被害が予想されます。放射能に触まれるのは人間だけではなく、自然界の生きものたち、すべてが汚染

されてしまうのです。6団体が連携して立ち上げた「六ヶ所再処理工場」に反対し放射能汚染を阻止する全国ネットワーク」ではスタートにあたって、共同の声明を確認しました。今後、青森での反対集会や署名活動、再処理工場を受け入れた青森県六ヶ所村や原子力政策の最高責任者である政府の関係機関にメッセージカードを送る取り組みなど、まずは11月の本格稼働阻止に向けて、生産者と共に運動を展開していくことになっていきます(左表参照)。

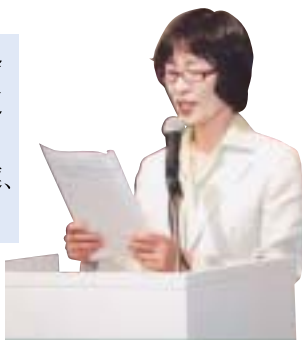
豊かな自然を未来につなぐために、子どもたちや家族の健康を守るために、再処理工場を許してはなりません。「生命」を大切に人間として母親の視点で取り組んでいきましょう。

### 今後の取り組みスケジュール

取り組み	日時・会場	内容
キックオフ集会	7月28日(土) 東京	全国ネットワークの発足と今後の運動をアピールし、ネットワークへの参加を社会に向けて呼びかける
現地集会	8月25日(土) 青森市文化会館	六ヶ所再処理工場がある青森に市民や生産者などが結集し、本格稼働反対をアピールする
署名活動	7月下旬から8月にかけて 展開予定	組合員に再処理工場本格稼働阻止を呼びかける署名用紙を配布。国や自治体に提出する
メッセージカード作戦	展開時期は未定	再処理工場本格稼働に反対する組合員一人ひとりの思いや願いをカードにしたため、国や自治体に反対の意志を届ける

※取り組み内容や日程は変更になることもあります

グリーンコープ連合第十五期通常総会において、「『六ヶ所再処理工場』に反対し放射能汚染を阻止する全国ネットワーク」の共同声明を特別決議として提案、満場一致で採択されました。



特別決議を読み上げるグリーンコープ連合理事・後藤典子さん<グリーンコープ生協(長崎) 理事長>

## 私たちは、六ヶ所村の使用済み核燃料再処理工場の本格稼働に反対します! ~豊かな自然、食べ物、そして生命を守る運動を呼びかけます~

青森県六ヶ所村にある「六ヶ所再処理工場」は、日本国内の各原子力発電所で燃やされた使用済み核燃料から、燃え残りのウランとプルトニウムを取り出す化学工場です。その本格稼働が、今年の11月にもはじまろうとしています。

私たちは、この「六ヶ所再処理工場」の本格稼働に反対し、その中止を求めます。

「六ヶ所再処理工場」は、本格稼働時、民生用では世界最大規模となる年間800トンもの使用済み核燃料を処理し、その過程で、大気中や海中に大量の放射能を放出します。放射能は、工場敷地内の排気塔から空に、沖合3km地点までひかれた放水管から海に放出されます。大気中には、クリプトン85(半減期10.76年)、トリチウム(半減期12年)、炭素14(半減期5730年)、ヨウ素129(半減期1570万年)、ヨウ素131(半減期8日)などの放射能が、海中には、トリチウム、ヨウ素129、ヨウ素131など、多種類の放射能を一挙に放出します。

しかも、「原子力発電所が1年間で排出する量」に匹敵する膨大な放射能をたった1日で放出し、それを本格稼働の予定年数とされる40年もの間、放出し続けることとなります。放出された放射能は消えることなく空と海の両方にひろがり、東北地方はもとより東日本全域が、放射能汚染の直接的な脅威と恐怖にさらされます。放射能はプランクトンや魚、植物等によって生体濃縮され、人間が食べ物から摂取した際には数万倍から数100万倍の濃度になると予想され、実際に再処理工場が稼働しているイギリスやフランスでも放射能の海洋汚染が大きな問題になっています。

放射能汚染は、自然環境とあらゆる生物に深刻な打撃を与えます。その脅威と恐怖は現地の人びとだけの問題ではなく、豊かな農畜水産物の恵みをうけてきた私たち全体の問題です。私たちは、放射能汚染という負の遺産を将来に残さず、これからも安心して国産の農産物、畜産物、海産物を食べ続けたいのです。

すでに沿岸の自治体では、海への放射能放出を規制する法律制定を求める請願を採択するなどの動きが出ており、全国各地で中止を求めるさまざまな取り組みが展開されています。

私たちもまた、「六ヶ所再処理工場」による放射能汚染を阻止することを目的とし、生産者と連携し、本格稼働の中止を強く求めていきます。

この目的を実現させるために、

- 1) 私たちは、放射能汚染による風評被害や実被害を発生させないように行動する決意を表明します。
- 2) 私たちは、自主的に放射能汚染を監視し、自然環境や第一次産業を守り育てることを宣言します。
- 3) 私たちは、生産者と連携し、産地と消費者をつなげ続けていくことを宣言します。
- 4) 私たちは、「六ヶ所再処理工場」による空と海の放射能汚染に反対し、豊かな自然環境と生命と食べ物を守る運動の大きなうねりを、ともに創ることを呼びかけます。

2007年6月13日

「六ヶ所再処理工場」に反対し放射能汚染を阻止する全国ネットワーク

呼びかけ団体(2007年6月13日現在)

- 生活協同組合あいコープみやぎ(理事長 吉武洋子)
- 生活協同組合連合会きらり(会長 奥万里子)
- 生活協同組合連合会グリーンコープ連合(会長 吉田文子)
- 生活クラブ事業連合生活協同組合連合会(会長 加藤好一)
- 大地を守る会(会長 藤田和芳)
- 特定非営利活動法人 日本消費者連盟(代表運営委員 富山洋子)